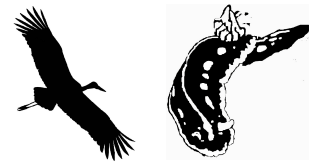


自然と生き物の色々な話



～七草がゆの野草とは?～

みなさんこんにちは。今回は、1月におかゆに入れて食べる植物、春の七草について話をしようとおもいます。

春の七草は芹(セリ)、薺(ナズナ)、御形(ゴギョウ)、繁縷(ハコベラ)、仏の座(ホトケノザ)、菘(スズナ)、蘿蔔(スズシロ)の七つです。複雑な漢字と聞き慣れない名前が多く、分かりづらいかもかもしれませんが、別の呼び方に変えてみると、薺→ペンペン草、御形→ハハコグサ、繁縷→ハコベ、仏の座→コオニタビラコ、菘→カブ、蘿蔔→ダイコンとなります。聞いたことや、見たことのある植物も多いのではないのでしょうか。今回はカブとダイコン以外の春の七草について説明します。



セリ(芹)

しめじめんは湿った地面に生える植物です。香りが強い植物で七草がゆ以外にも天ぷらやおひたし等にして食べます。競り合うようにたくさん生えることからその名前が付いています。仲間の植物はパセリやミツバ等です。



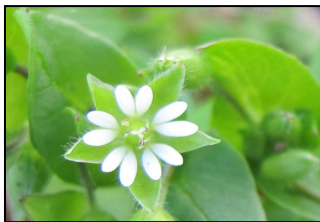
ペンペン草 (薺)

やよいじだいあたに弥生時代辺りに中国からやってきたと言われている古い外来種です。ナズナというよりペンペン草と言う別名の方がよく知られています。ちなみに名前の由来はペンペンとした音がするからではなく、種が三味線のばちに似ているからです。



ハハコグサ(御形)

たんぼのあぜ等に田んぼのあぜ等の湿った土に生える植物です。もう少しで咲きそうな黄色いキクのつぼみに似た花をつけます。つぼみのように見えますが写真の花はこれで満開です。朝鮮半島をとおって日本にやってきたと言われている古い外来種です。



ハコベ(繁縷)

みちばたに道端や田んぼのあぜ等至る所に生えている小さな白い花の植物です。ハコベは、見た目のよく似た植物が多くあり、判別が難しい植物です。花びらが10枚あるように見えますが、深く切れ込んでいるだけで花びらは5枚です。



コオニタビラコ(仏の座)

花はタンポポに似ていますが、タンポポほど花びらは多くありません。つるのように見える細長い茎を持ちます。あぜ道に良く生えています。

七草がゆは、一年間の健康を祈って、これらとカブとダイコンを刻んでおかゆに入れて食べます。春の七草の多くは道端に生えていますので、道端の草をよく観察してみると簡単に見つかります。皆さんも春の七草探しをやってみませんか。